



ぶらり相生第 15 号

平成 30 年 1 月

## 「<sup>きんぶ</sup>金峯神社の変わった絵馬」

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしく申し上げます。

さて、新年神社へ初詣に出かける方も多いと思います。その際、神社で目にするものが絵馬ではないでしょうか。絵馬は多くの神社で奉納され、目にする機会はそれほど珍しいものではありません。絵馬は、神社や寺院に祈願するとき、あるいは祈願した願いが叶ってその謝礼をするときに寺社に奉納する、絵が描かれた木の

板です。奈良時代の『<sup>しよく</sup>続日本紀』には、神の乗り物としての馬、神馬を奉納したと記されています。しかし、馬は高価で奉納しにくく、また、奉納された寺社の側でも世話をするのが大変なため、馬を奉納できない者は次第に木や紙、土で作った馬の像で代用するようになり、平安時代から板に描いた馬の絵で代えられるようになりました。



室町時代になると馬だけでなく様々な絵が描かれるようになります。初期の例として、狐を使いとする稲荷神社では狐の絵が描かれることもあります。また他にも、三十六歌仙の肖像や武者絵、祈願の対象である文殊菩薩を描いた例などがあります。

安土・桃山時代になると、狩野派や長谷川派・海北派など著名な絵師による本格的な絵馬が人気となり、それらを展示する絵馬堂も建てられました。絵馬堂は今日の美術館のような役割を果たし、絵師たちが技を競うとともに、展示される絵のイメージが人々に共有されるなど、新たな作品を生む原動力をもたらす場でありました。

江戸時代になると、家内安全や商売繁盛といった実利的な願いをする風習が庶民に広まり、今日のように個人が小さな絵馬を奉納する形が始まります。眼病予防に「め」および左右逆の「め」を書いた絵馬や、和算家は、自分が解いた問題の解法を書いた算額という絵馬を奉納し、日本武術では剣術、柔術、棒術などで薙刀や木刀や棒を門人の一覧に付した絵馬を奉納しました。

さて、相生市榊地区の金峯神社の額（<sup>かいほう</sup>写真）は、縦 93.4cm、横 60.2cm で、「奉納 文政十三年寅閏三月十五日、御神前、参宮 おかげどし、氏子 男十三人組、柄杓の柄には太神宮、杓にはおかけとし」と記され、神社の拝殿に奉納されています。おかげ参りは、江戸時代に流行した伊勢神宮への群衆参拝をいい、文政 13 年（1830）年に参宮した記念として、「おかげ参り柄杓」12 本を額に打ち付けて、鎮守社に奉納したものです。どこにも絵は描かれず、ひしゃくだけを並べた絵馬は、全国的にも珍しいものです。